

## 平成 30 年度 琉球大学 2 次試験前期日程 (数学問題)

理・工・医・農・教育学部 平成 30 年 2 月 25 日

- 理・工・医・教育 [数学] 学部は, [1] ~ [4] 数 I・II・III・A・B (120 分)
- 農・教育 (学校教育 [教育実践学・技術・特別支援], 生涯教育 [自然環境科学]) 学部は, [5], [6] 数 I・II・A・B (60 分)

[1]  $a$  を正の実数とする. 関数  $f(x) = -x^2 + 4x$  と  $g(x) = 2|x - a|$  について, 次の問いに答えよ.

- (1)  $y = f(x)$  のグラフと  $y = g(x)$  のグラフの共有点が 1 点となるような  $a$  の値を求めよ.
- (2) (1) で求めた  $a$  の値のときに,  $y = f(x)$  のグラフ,  $y = g(x)$  のグラフおよび  $x$  軸で囲まれた部分の面積を求めよ.
- (3)  $y = f(x)$  のグラフと  $y = g(x)$  のグラフが異なる 2 点で交わるような  $a$  の値の範囲と, 2 つの交点の  $x$  座標を求めよ.

[2]  $n = 1, 2, 3, \dots$  に対して,  $a_n = n^2 + n + 1$  とおく. さらに, 実数  $x_n, y_n$  を

$$(a_1 + i)(a_2 + i)(a_3 + i) \cdots (a_n + i) = x_n + y_n i \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

によって定める. ただし  $i$  は虚数単位とする. 次の問いに答えよ.

- (1)  $x_2, y_2$  および  $x_3, y_3$  を求めよ.
- (2) 自然数  $n$  に対して,  $\frac{y_n}{x_n} = \frac{n}{n+2}$  が成り立つことを示せ.

[3] 関数  $y = e^{\sin x + \cos x}$  ( $-\pi \leq x \leq \pi$ ) の増減, 極値, 凹凸を調べ, そのグラフをかけ.

[4] 2 つの箱 A, B があり, どちらの箱にも赤玉と白玉が 1 個ずつ入っている. それぞれの箱から, 無作為に玉を 1 個取り出し, 取り出した玉を交換して箱に戻す操作を繰り返す.  $n$  回の操作の後, 箱 A, B のどちらにも赤玉, 白玉が 1 個ずつ入っている確率を  $p_n$  とする. 次の問いに答えよ.

- (1)  $p_1, p_2$  を求めよ.
- (2)  $p_n$  を用いて  $p_{n+1}$  を表せ.
- (3) 自然数  $n$  に対して,  $p_n$  を求めよ.

5 次の問いに答えよ .

- (1) 今日は日曜日で , 10 日後は水曜日である . 100 日後および 100 万日後はそれぞれ何曜日か , 理由とともに答えよ .
- (2)  $x$  の方程式  $\log_2(x-1) - \log_{\frac{1}{2}}(x-4) = 1$  を解け .
- (3) 三角形 OAB で , 辺 OA を 2 : 1 に内分する点を L , 辺 OB の中点を M , 辺 AB を 2 : 3 に内分する点を N とする . 線分 LM と ON の交点を P とする .  $\vec{a} = \vec{OA}$  ,  $\vec{b} = \vec{OB}$  とするとき ,  $\vec{ON}$  と  $\vec{OP}$  を  $\vec{a}$  ,  $\vec{b}$  を用いて表せ .

6 関数  $f(x) = x|x-3|$  ( $0 \leq x \leq 4$ ) について , 次の問いに答えよ .

- (1)  $y = f(x)$  のグラフをかけ .
- (2) 微分係数  $f'(2)$  の値を求めよ .
- (3) 定積分  $\int_0^4 f(x) dx$  の値を求めよ .

## 正解

- 1 (1)  $a > 0$  より,  $y = f(x)$  と  $y = g(x)$  の共有点が1点となるのは, 2次方程式

$$-x^2 + 4x = -2(x - a)$$

すなわち  $x^2 - 6x + 2a = 0$

が重解をもつときであるから, 係数について

$$D/4 = (-3)^2 - 1 \cdot 2a = 0$$

これを解いて  $a = \frac{9}{2}$

- (2) 求める面積を  $S$  とすると

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2} \left( \frac{9}{2} - 3 \right) \cdot 3 - \int_3^4 (-x^2 + 4x) dx \\ &= \frac{9}{4} - \left[ -\frac{x^3}{3} + 2x^2 \right]_3^4 = \frac{7}{12} \end{aligned}$$

- (3) (1) の図から,  $y = f(x)$  のグラフと  $y = g(x)$  のグラフが異なる2点で交わるような  $a$  の値の範囲は

$$0 < a < \frac{9}{2}$$

また, そのときの交点の座標は

- (i)  $0 < a \leq 4$  のとき

$$-x^2 + 4x = 2|x - a|$$

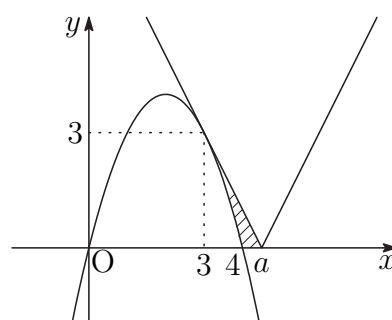
$0 < x \leq 4$  に注意して, これを解くと

$$x = 3 - \sqrt{9 - 2a}, 1 + \sqrt{1 + 2a}$$

- (ii)  $4 < a < \frac{9}{2}$  のとき

$$-x^2 + 4x = -2x + 2a$$

これを解くと  $x = 3 \pm \sqrt{9 - 2a}$



2 (1)  $a_n = n^2 + n + 1$  より ,  $a_1 = 3$  ,  $a_2 = 7$  ,  $a_3 = 13$  であるから , 定義式より

$$x_2 + y_2i = (a_1 + i)(a_2 + i) = (3 + i)(7 + i) = 20 + 10i,$$

$$\begin{aligned} x_3 + y_3i &= (a_1 + i)(a_2 + i)(a_3 + i) \\ &= (20 + 10i)(13 + i) = 250 + 150i \end{aligned}$$

よって  $x_2 = 20$  ,  $y_2 = 10$  ,  $x_3 = 250$  ,  $y_3 = 150$

$$(2) \quad \frac{y_n}{x_n} = \frac{n}{n+2} \quad \dots (A)$$

[1]  $n = 1$  のとき  $x_1 + y_1i = a_1 + i = 3 + i$

$x_1 = 3$  ,  $y_1 = 1$  であるから , (A) は成立する .

[2]  $n = k$  のとき , (A) が成立すると仮定すると

$$\begin{aligned} x_{k+1} + y_{k+1}i &= (a_{k+1} + i)(x_k + y_ki) \\ &= (a_{k+1}x_k - y_k) + (x_k + a_{k+1}y_k)i \end{aligned}$$

$x_{k+1} = a_{k+1}x_k - y_k$  ,  $y_{k+1} = x_k + a_{k+1}y_k$  であるから

$$\begin{aligned} \frac{y_{k+1}}{x_{k+1}} &= \frac{x_k + a_{k+1}y_k}{a_{k+1}x_k - y_k} = \frac{1 + a_{k+1} \cdot \frac{y_k}{x_k}}{a_{k+1} - \frac{y_k}{x_k}} \\ &= \frac{1 + (k^2 + 3k + 3) \cdot \frac{k}{k+2}}{k^2 + 3k + 3 - \frac{k}{k+2}} = \frac{k+2 + (k^2 + 3k + 3)k}{(k+2)(k^2 + 3k + 3) - k} \\ &= \frac{k^3 + 3k^2 + 4k + 2}{k^3 + 5k^2 + 8k + 6} = \frac{(k+1)(k^2 + 2k + 2)}{(k+3)(k^2 + 2k + 2)} = \frac{k+1}{k+3} \end{aligned}$$

よって ,  $n = k + 1$  のときも (A) は成立する .

[1] , [2] より , すべての自然数  $n$  について , (A) は成立する .

3  $t = \sin x + \cos x = \sqrt{2} \sin\left(x + \frac{\pi}{4}\right)$ ,  $t' = \frac{dt}{dx}$ ,  $t'' = \frac{d^2t}{dx^2}$  とおくと,  $y = e^t$  より

$$\frac{dy}{dx} = t'e^t, \quad \frac{d^2y}{dx^2} = \{t'' + (t')^2\}e^t$$

このとき  $t' = \sqrt{2} \cos\left(x + \frac{\pi}{4}\right)$ ,  $t'' = -\sqrt{2} \sin\left(x + \frac{\pi}{4}\right)$

したがって  $t'' = -t$ ,  $(t')^2 = 2 - t^2$

ゆえに  $t'' + (t')^2 = -t + 2 - t^2 = -(t+2)(t-1)$  ( $-\sqrt{2} \leq t \leq \sqrt{2}$ )

$\frac{dy}{dx}$ ,  $\frac{d^2y}{dx^2}$  の符号は, それぞれ  $t'$ ,  $-(t-1)$  の符号と一致する.

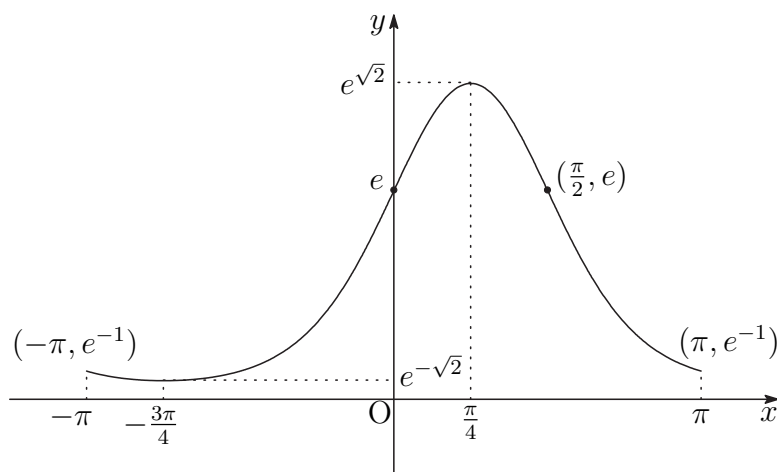
したがって,  $y = e^{\sin x + \cos x}$  の増減・凹凸は次のようになる.

$x$	$-\pi$	$\dots$	$-\frac{3\pi}{4}$	$\dots$	$0$	$\dots$	$\frac{\pi}{4}$	$\dots$	$\frac{\pi}{2}$	$\dots$	$\pi$
$\frac{dy}{dx}$			$-$	$0$	$+$	$+$	$+$	$0$	$-$	$-$	$-$
$\frac{d^2y}{dx^2}$			$+$	$+$	$+$	$0$	$-$	$-$	$-$	$0$	$+$
$y$	$e^{-1}$	$\searrow$	$e^{-\sqrt{2}}$	$\nearrow$	$e$	$\nearrow$	$e^{\sqrt{2}}$	$\searrow$	$e$	$\searrow$	$e^{-1}$

よって 極小値  $f\left(-\frac{3\pi}{4}\right) = e^{-\sqrt{2}}$ , 極大値  $f\left(\frac{\pi}{4}\right) = e^{\sqrt{2}}$

変曲点は  $(0, e)$ ,  $\left(\frac{\pi}{2}, e\right)$

以上の結果から, グラフの概形は次のようになる.



補足  $t = \sin x + \cos x$  ( $-\pi \leq x \leq \pi$ ) が  $x = -\frac{3\pi}{4}$ ,  $\frac{\pi}{4}$  でそれぞれ極小, 極大となるから,  $y = e^{\sin x + \cos x}$  も  $x = -\frac{3\pi}{4}$ ,  $\frac{\pi}{4}$  でそれぞれ極小値, 極大値をとる.  
これを元にグラフの増減・凹凸を考えるとよい.

- 4 (1) 箱 A に違う色の玉が入っているとき, 1 回の操作の後, 箱 A に違う色の玉が入る確率は, A, B 両方の箱から同じ色の玉を交換する確率であるから

$$\left(\frac{1}{2}\right)^2 + \left(\frac{1}{2}\right)^2 = \frac{1}{2}$$

箱 A に違う色の玉が入っているとき, 1 回の操作の後, 箱 A に同じ色の玉が入る確率は, この余事象の確率であるから

$$1 - \frac{1}{2} = \frac{1}{2}$$

また, 箱 A に同じ色の玉が入っているとき, 1 回の操作の後には箱 A に違う色の玉が入る.

$p_n$  は  $n$  回の操作の後, 箱 A に違う色の玉が入っている確率と考えてもよい. また,  $n$  回の操作の後, 箱 A に同じ色の玉が入っている確率を  $q_n$  とすると, 次の確率漸化式が成立する.

$$p_1 = \frac{1}{2}, \quad q_1 = \frac{1}{2}, \quad (*) \begin{cases} p_{n+1} = \frac{1}{2}p_n + q_n \\ q_{n+1} = \frac{1}{2}p_n \end{cases}$$

よって 
$$p_2 = \frac{1}{2}p_1 + q_1 = \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2} + \frac{1}{2} = \frac{3}{4}$$

- (2)  $p_n + q_n = 1$  であるから, これと (\*) の第 1 式から  $q_n$  を消去すると

$$p_{n+1} = \frac{1}{2}p_n + (1 - p_n) \quad \text{よって} \quad p_{n+1} = -\frac{1}{2}p_n + 1$$

- (3) (1), (2) の結果から  $p_1 = \frac{1}{2}, \quad p_{n+1} = -\frac{1}{2}p_n + 1 \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$

したがって 
$$p_{n+1} - \frac{2}{3} = -\frac{1}{2} \left( p_n - \frac{2}{3} \right)$$

数列  $\left\{ p_n - \frac{2}{3} \right\}$  は, 初項  $p_1 - \frac{2}{3} = -\frac{1}{6}$ , 公比  $-\frac{1}{2}$  の等比数列であるから

$$p_n - \frac{2}{3} = -\frac{1}{6} \left( -\frac{1}{2} \right)^{n-1} \quad \text{よって} \quad p_n = \frac{2}{3} + \frac{1}{3} \left( -\frac{1}{2} \right)^n$$

- 5 (1) 整数を7で割った余りと曜日を次のように対応できる.

0	1	2	3	4	5	6
日	月	火	水	木	金	土

したがって  $100 \equiv 2 \pmod{7}$   
 $100^3 \equiv 2^3 \equiv 1 \pmod{7}$

よって, 100 日後は 火曜日, 100 万日後は 月曜日

- (2) 真数は正であるから

$$x - 1 > 0 \text{ かつ } x - 4 > 0 \text{ すなわち } x > 4 \quad \cdots \textcircled{1}$$

$$\log_{\frac{1}{2}}(x - 4) = \frac{\log_2(x - 4)}{\log_2 \frac{1}{2}} = -\log_2(x - 4) \text{ より, 与えられた方程式は}$$

$$\log_2(x - 1) + \log_2(x - 4) = 1$$

$$\log_2(x - 1)(x - 4) = \log_2 2$$

したがって  $(x - 1)(x - 4) = 2$  ゆえに  $x^2 - 5x + 2 = 0$

①に注意して, これを解くと  $x = \frac{5 + \sqrt{17}}{2}$

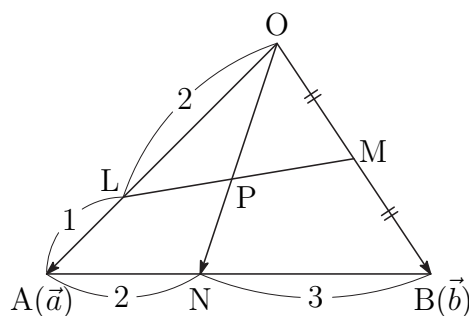
- (3) 点 N は辺 AB を 2 : 3 に内分する点であるから

$$\overrightarrow{ON} = \frac{3\vec{a} + 2\vec{b}}{5}$$

$\vec{a} = \frac{3}{2}\overrightarrow{OL}$ ,  $\vec{b} = 2\overrightarrow{OM}$  を上式に代入すると

$$\begin{aligned} \overrightarrow{ON} &= \frac{3 \cdot \frac{3}{2}\overrightarrow{OL} + 2 \cdot 2\overrightarrow{OM}}{5} \\ &= \frac{17}{10} \cdot \frac{9\overrightarrow{OL} + 8\overrightarrow{OM}}{17} = \frac{17}{10}\overrightarrow{OP} \end{aligned}$$

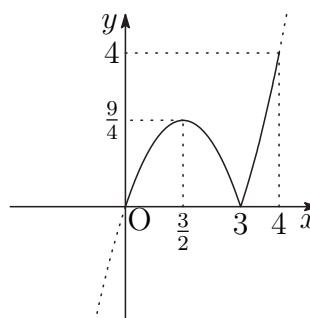
よって  $\overrightarrow{OP} = \frac{10}{17}\overrightarrow{ON} = \frac{10}{17} \cdot \frac{3\vec{a} + 2\vec{b}}{5} = \frac{6\vec{a} + 4\vec{b}}{17}$



6 (1)  $f(x) = x|x-3|$  ( $0 \leq x \leq 4$ ) より

$$f(x) = \begin{cases} -x(x-3) & (0 \leq x \leq 3) \\ x(x-3) & (3 \leq x \leq 4) \end{cases}$$

$-x(x-3) = -\left(x - \frac{3}{2}\right)^2 + \frac{9}{4}$  より,  $y = f(x)$   
のグラフは, 右の図のようになる.



(2)  $0 \leq x \leq 3$ において,  $f(x) = -x^2 + 3x$  より

$$f'(x) = -2x + 3 \quad \text{よって} \quad f'(2) = -1$$

(3) (1) で示したグラフから

$$\begin{aligned} \int_0^4 f(x) dx &= \int_0^3 (-x^2 + 3x) dx + \int_3^4 (x^2 - 3x) dx \\ &= \left[ -\frac{x^3}{3} + \frac{3}{2}x^2 \right]_0^3 + \left[ \frac{x^3}{3} - \frac{3}{2}x^2 \right]_3^4 = \frac{19}{3} \end{aligned}$$